

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県藤岡市 藤岡市国民健康保険鬼石病院

法適用区分	集役名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド	救 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
61,551	5,886	第2種該当	-	1 3 : 1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
52	47	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	99
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
52	46	98

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の業務・ネットワークを基に）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	-
-	年度	-

## I 地域において担っている役割

当院は、鬼石地域及び埼玉県北部地域の一部が地域診療圏（半径4 km）となる中山間地域に位置する唯一の公立病院である。当地域診療圏において、唯一、入院病床を持つ中核病院として、外来・入院等診療に加え、各種検診や予防接種、救急医療体制を整え、地域医療の維持・確保の役割を果たしてきている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率 入院収益は、微増となったが外来収益では、前年度より1.5割強の減収となった。入院の病床利用率では、微増となるが依然、90%を下回っている。外来患者数は、内科は増加となったが外科は減少した。医療収益で医療費用を賄えることができず、他会計からの繰入金を補入している状況が続いている。  
②修正医療収支比率 医療収益の平均値よりも上回ったが、前年度に続き減少となっている。  
③修正医療収支比率 医療収支比率と同様に類似病院の平均値を上回るが、前年度に続き減少が続いている。  
④病床利用率 前年度より+3.5pt増加し、全国平均や類似病院の平均より上回る。一般病床で増加。  
⑤入院患者1人1日当たり収益 入院収益・入院患者数ともに前年度より、微増になったが患者数に対し収益の伸び率が小さかったため、1日当たり収益は微減となった。  
⑥外来患者1人1日当たり収益 外来患者数は、前年度より増加となるが、外来収益は1.5割強の減収となった。特定疾患診療管理料の対象疾患から難病疾患が除外されたことなど、先の診療報酬改定による単価の減少等が要因と考えられる。  
⑦職員給与費対医療収益比率 全国平均や類似病院の平均値を上回り、前年度に比べ大幅に増加し、当年度は91.2%となった。正規職員の高齢化率の増加により、人件費率と上昇している。  
⑧材料費対医療収益比率 薬品費、診療材料等の費用の削減により、当年度平均値を下回り、経費の削減が図れている。  
⑨医療欠損金比率 大幅な赤字計上が続いており、増加ポイントは前年度より小さいものの、+16.6pt悪化した。さらなる経費削減の対策など経営改善を図っていく。

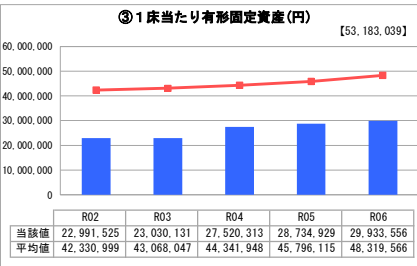
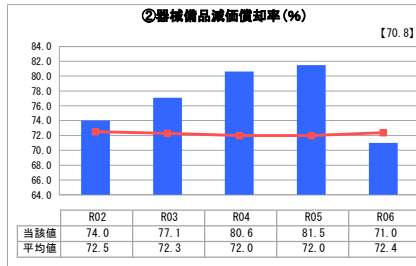
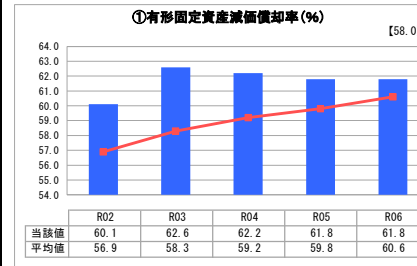
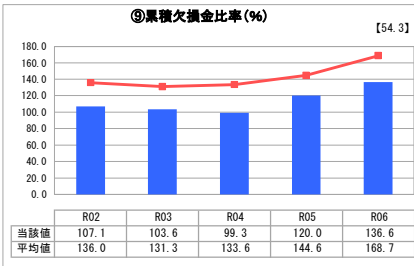
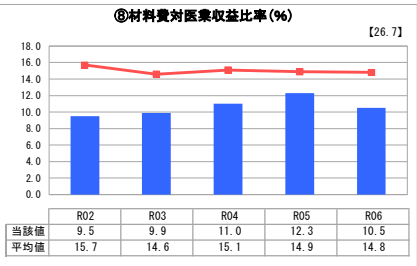
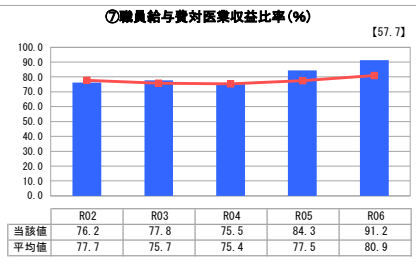
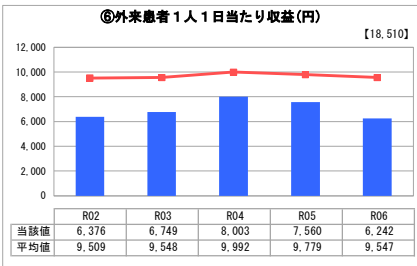
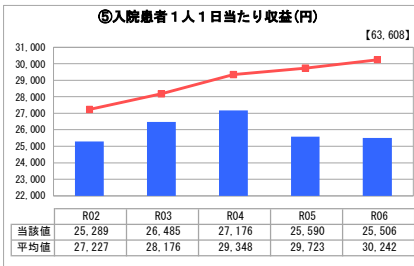
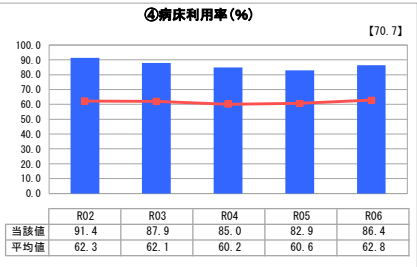
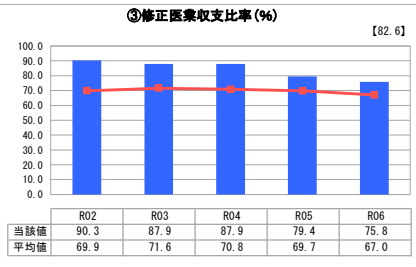
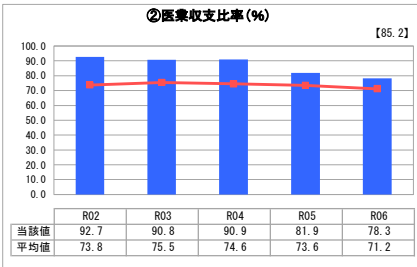
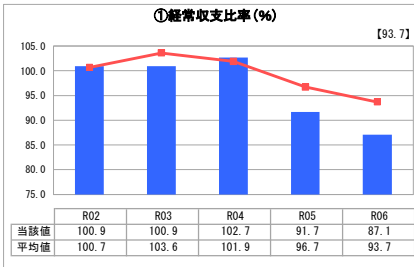
### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率 各平均値と近く同じような推移をたどっている。経営状況に合わせて、計画的な施設設備の長寿命化を図っていく。  
②器械備品減価償却率 電子カルテシステムの資産が増えたため、取得原価が上昇したことにより、割合が減少した。医療行為に支障をきたさぬよう、経営状況に合わせて、計画的に必要な機器の更新を続けていく。  
③1床当たり有形固定資産 類似病院平均より下回っており、過大な投資はなく、適正な規模で実施できている。

### 全体総括

収益において、入院収益では、一定の入院患者数を維持しており、前年度に対し微増となったが外来収益では、患者数の減少が続いている。当院の近隣には介護施設が複数あることから、施設への往診や定期受診、救急の受入れ、入退院先の調整など、連携体制が図れるよう、介護施設へ積極的にアプローチし、患者の確保に取り組んでいく。また、同地域にある公立藤岡総合病院の後方支援の病院として、紹介患者を積極的に受入れていく。これら患者を受け入れるためにも引続き、医師の確保を目指す。  
費用では、当年度においても薬品や診療材料の見直しや消耗品費のコスト削減に取り組んでいるが、より一層の削減が図れるよう見直していく。  
周辺地域における中核病院として、今後も質を低下させることなく、安心安全な医療を提供していくために、収益の増収化と費用の削減化に取り組んでいく。

### 1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。